建設新聞
平成15年2月25日

帯広支社
☎0155(22)0401
FAX(28)2519
釧路支社
☎0154(41)3832
FAX(44)2065
北見支社
☎0157(23)4666
FAX(66)2175
網走支局
☎0152(44)2675
FAX(61)2175

円にも指名へ

ケ丘学園体育館大規模改造

会福祉法人緑内市声間四〇石塚宗博理事障害児更正施設の体育館大規模改造のため、大規模改造を行うことにした。設計は創匠建築設計。入札は指名競争入札となる予定で、今後、理事会で発注スケジュールなどを詰めていく。

同学園では、二〇〇一年に隣接する知的障害者更正施設「稚内はまなす学園」の体育館（延べ九百九十四平方㍍）を新築している。

稚内開建 情報共有化を試行

補正の道路工事10件で

【稚内】稚内開建は、本年度補正工事で発注する道路工事十件を情報共有化対象工事として試行する。稚内開建稚内開発事務所にサーバーを設置し、発注者、受注者がいつでも打ち合わせなどの資料を引き出せるようにする。

今回、対象となっているのはいずれも公募型指名競争入札で、稚内開建稚内開発事務所管の工事。内訳は40号豊富町芦川改良

建設新聞

整備

設など

、二十五日までに分
地の拡充、住環境の形
は二〇一〇年の幹線街
める路線として北見道路、3・
の都市計画決定を予定している。

整備、保全につ
いては緑の基本計画を踏ま
えた内容で、ほぼ十年以内
に帯広川水系緑地、フラワ
間のグレー
盛り込んだ。
の整備目標
見道路、3
道、3・4
・3・50小
・44相内北
犬正通、3
丘通、3・
ゆを挙げ、
内に整備を
線管渠の整
ら分流方式
は帯広川、無
ほの河川改
める考えだ。

3氏の功労たたえる

技能・職能開発関連受賞者

【網走】技能・職能開発関連の受賞者をたたえる会が二十一日、網走セントラルホテルで開かれ、菊地工作所社長の菊地政明さんら三人の受賞者を祝った。

この会は網走職業訓練協会などが実行委員となって毎年行っているもので、今回は網走市技能功労者に輝いた西村及喜さん、道職業能力開発協会訓練功労者の菊地さんと小川裕美さんの三人をたたえた。

主催者を代表して本間弘哉網走職業訓練協会副会長が「こういう厳しい経済状況が続いている時こそ、技能者が力を発揮する。業界のため、後進のためにも、これまで以上の活躍を期待したい」とあいさつ。

続いて受賞者を一人ひとり紹介し、花束を贈呈。渡辺網走市経済部長ら来賓が祝辞を寄せた。

これに対し、受賞者を代表して西村さんが「より一層、新たな技能の獲得・向上に努め、受賞に恥じないよう力を尽くしたい」と謝辞を述べた。

お祝いの花束を受け取る受賞者たち

業らい職業協会 走訓練

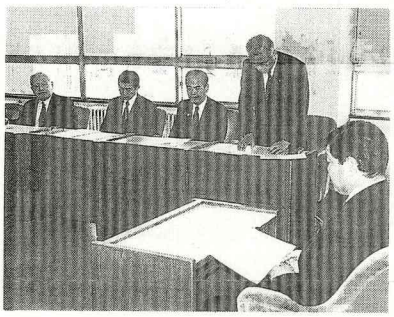
ISO取得を低価格で

建設業者対象にセミナー

【根室】別海町建設業協会二十一世紀会（菅野晴康会長）は二十二日、別海町マルチメディア館で建設業者対象のISO取得に関する中小企業経営セミナーを開き、建設関係業者二十八社が参加した。

開催に当たって菅野会長が「ISOの知識を聞き、厳しい経営環境にプラスになるよう有意義に学んでほしい」とあいさつ。講師は地場企業であるイソジェックの磯田忠雄社長が務めた。

同社は中小企業支援の横浜アドプロモーション協同組合、東京スコットマネジメントが共同開発したプログラムを活用し、品質管理の国際規格ISO9001の認証取得を支援している。今回はYAP・ISOパッケージとして一事業所三十人以内の企業を対象に、認証取得とコンサルティング料を含めて百四十万円（税別）を実現した。講演で磯田氏は、ISOの必要性や取得のメリット、取得費用、取得までの流れなどを分かりやすく説明していた。


伊東市長（手前）に地元建設業界の苦境などを訴えた

協会 建 町 紀 世 別海 21

自社のホームページを使い説明する磯田社長

光南小の屋体・プール改築

新年度早々に発注

帯広市の学校プール拠点校化第1弾

【帯広】学校プールの地区ごとの拠点校化を目指す帯広市は、第一弾となる光南小屋体・プール改築を二〇〇三年度早々にも発注する考えだ。

両施設は二階を温水プール、二階を屋体として合築する。延べ面積は一階が千四百八十五平方㍍、二階が千四百四十八平方㍍の計二千六百三十三平方㍍。構造はRC造。設計は久米設計・創造設計舎・アルス設備設計共同体で、終えた。プールは二十五㍍七コースで一般市民にも開放する。

光南小は一九五六年の建設。屋体は市内で最も古い。屋体とプールの効率的な建設を目指すとともに市内東、北中央、南、西の四ブロックに分け、それぞれにこれらを含めた施設の設置を計画。最初となる光南小は東ブロックの五校、約千五百戸の利用を見込んでいる。

建設地は帯広市東五南二〇ノ一の現校舎東側。旧屋体を取り壊して着工。竣工は来年三月の予定で、完成後に旧プールを撤去する。

市が二十日発表した新年度予算案によると、事業費は八億七千八百万円を計上している。

鉄道高架など5項目要望

釧路商議所建設部会が市長に

【釧路】釧路商工会議所の建設部会（庄司圭幸部会長）は二十一日、釧路市役所を訪れ、伊東良孝市長に鉄道高架への取り組みやPFIの活用、地元業者への優先発注など六項目を要望した。

庄司部会長は、これまで地域を支えてきた基幹産業の連関に大きな風穴が開き、地域発展に欠かせない公共事業の減少や人材流出など経験したことのない打撃を受けていることを説明。産業、雇用面に占める割合の大きい建設業にあって公共事業への依存度が高い地元建設業に対し、工事量確保や新規事業の具体化などを求めた。

陳情したのは①新総合計画の積極推進の工事量の最大限確保③公共事業の早期発注⑤情報化関連基盤整備⑤雇用対策の積極推進―の五項目。

①では釧路港整備や釧路川整備、鉄道高架、道立施設の改築・誘致のバックアップ、橋梁新設や除雪体制の充実、国など公的機関の誘致を要請。②では高齢者の住みやすいまちづくりの推進、PFI活用、地元業者への優先発注を求めた。

これに対し、伊東市長は「公共事業は世間から誤解や偏見を招いているが、市発展の礎となる土木工事などはきちんと確保しないとならない。市民に理解してもらえる事業計画を立てるためにもお互い、意見交換を図りながら進めていきたい」と表明。

鉄道高架の問題をめぐって、四月一日付で市職員を道に派遣し、全国の事例などの情報収集に当たらせるとともに、鉄道高架ができるのかできないのかを含めた、実務者プロジェクトチームを立ち上げる意向を示した。PFIについては「やってみたい」としても一カ所、モデル的に示し、業界と一緒に研究していく考えを明らかにした。

このほか、除雪など企業を地域に公益しい除雪システムの共同体の扱いでも、者への優先発注に努めることを約束した。

恒久対策で防護溝

留朋森づくりセンター 別苅漁港復旧治山

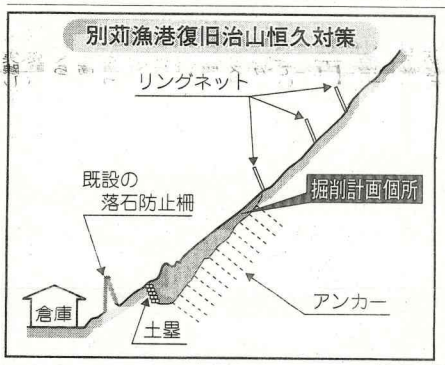
新年度から2カ年

【留朋】留朋森づくりセンターは、新年度から二カ年で別苅漁港復旧治山の恒久対策に取り組む。漁港施設背後のがけに防護溝を新設して落石による被害を防ぐ計画で、事業費には一億七千万円を試算。新年度は一億三千万円を充て、掘削した三千立方㍍にアンカー打設を八月にも発注する。

防護溝は、斜面の一部を掘り込み、表面にアンカーを打設、前面に土嚢を築いて落石を止めるポケットをつくる工法。

別苅漁港復旧治山では、応急対策で設置したリングネット直下からがけまでの斜面を深さ五㍍まで掘り込む。溝の長さ三十五㍍、幅六㍍、掘削量八千立方㍍の規模を想定しており、直径三㍍級の落石を捕そくできるという。

同漁港の復旧治山は、背後にある高さ百五十㍍のがけの落石対策を二九八一年度から進めている。二〇〇〇年度に崩落がおきてからは災害対策として岩塊除去を計画していたが、岩塊内の亀裂が想定以上に多く危険で地盤条件からも難工事が予想されたため施工が比較的安全で工期も短く、コスト面でも有効な防護溝を設置する方法をとることにした。



プロの手ほどきで本棚作りに挑戦

十勝地方青年技能士会

小学生対象に「技能ふれあい教室」

十勝地方青年技能士会（中島善信会長）は二十二日、帯広市職業訓練センターで小学生を対象に「技能ふれあい教室」を開き、参加した十八人の児童が本棚作りに挑戦した。

苦労して作った自慢の本棚をそばに置き指導員の講評を聞く児童たち

中島会長は「みんな一生懸命、明るく楽しくやってくれて、出来栄えも大変良かった。何よりも、けがもなく全員、完成できたのが良かった」と感想を述べた。

子供たちは、中島会長ら一級技能士四人の指導を受け、同会が用意した材料をのこぎりで切ったり、やすりをかけて加工した後、くぎを打って組み立てていった。

子供たちの大半は普段、のこぎりや金づちを使ったことがなく、初めての体験に戸惑いながらも楽しんで作業。朝九時から始めた本棚作りは、午後二時ごろには二スを塗って、全員が上手に完成させた。

釧路地域6市町村合併協

来月9日に釧路で住民公開セミナー

下旬からは住民説明会も

【釧路】釧路地域六市町村合併協議会は、住民公開セミナーを三月九日午後一時から釧路パシフィックホテルで開く。一月まで総務省総務審議官を務めていた月尾嘉男氏が「平成の市町村合併が目指すこと」と題し、講演する。入場無料。参加希望者は同協議会事務局（各市町村の合併担当窓口まで）に申し込むこと。

また三月下旬から十日の音別町を皮切り月四日の鶴居村まで町村で住民説明会を開く。音別、阿寒（三九日）、白糠（同三）、鶴居の四町村は一日催するが、釧路町は日から二十七日まで市は二十五日から回）実施。これまでいずれも連日会の経過と、二新市想「行財政シミュレーション」行政現況基礎内容を要約したダイト版について説明する詳しくは合併協議局、電話0154-8580まで。

総勢160人が流雪溝投雪ボランティア

旭川建設業協会二世会（荒井保則会長）は二十二日、旭川市内で流雪溝投雪ボランティアを行った＝写真。参加したのは、同会員二十五人のほか、旭川市職員ら総勢160人。

この活動が始まった九七年から始めて回で六回目。

投雪路線は、一りの流雪溝設置区間所で、総延長二十三雪を正午まで行った。溝付近には、所々にまった雪が二㍍以上げられており、これ者がスコップで流雪運んだ。

この活動が始まった毎年参加している流雪溝管理運営協議鳴瞭副会長は「ボランア活動を通して、少市民の役に立てれば白い息を吐きながら当たっていた。